

県立中央病院

救急医療体制学ぶ

—研修中のモンゴル人医師—

ICU・ドクターヘリ見学

徳島大病院（徳島市）で病院運営に関する研修を受けているモンゴル国立医科大学の医師ら11人が3日、県立中央病院（同市）を訪れ、救急医療体制などについて学んだ。緊急処置を行う集中治療室（ICU）など

を視察し、県立中央病院「救急受け入れ約5200件の医師から、年間の0件のうち重症患者は



県立中央病院の医師（右端）からドクターヘリの説明を聞くモンゴル国立医科大学の医師ら
—県立中央病院ヘリポート

約800人と、救急医療の重要性が増していることを聞いた。ドクターヘリも見学。人工呼吸器や心臓マッサージ器などを備え、専属の救急医が車で3時間近くかかる距離を15分で到着したことなどの説明を受けた。
モンゴル国立医科大学のドゥンゲルドルジ・ゾリグ副学長（50）は「しっかりと学んで母国の医療発展につなげたい」と話した。
一行は、日本式の質の高い医療サービスなどを導入するため、6月26日から徳島大病院で研修を受けており、7月8日まで滞在する。（笠井理）